

令和7（2025）年度

生涯学習・社会教育関係職員パワーアップ講座②実施報告

実施日：令和7年10月3日（金）

本研修は、生涯学習・社会教育主管課や公民館、市民センター、図書館、博物館、関連施設等の職員を対象に、社会の要請に応じた生涯学習・社会教育行政を一步ずつ着実に推進するため、各自治体で取り組もうと考える施策を実現・実行するために必要な知識や技術の習得を目指して実施しました。

○講話・事例発表「ウェルビーイングの向上を意識した事業展開のポイント」

北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課
北海道厚真町教育委員会生涯学習課

長岡 広之 氏
斉藤 烈 氏

講話では、長岡氏から社会教育行政の役割や、ウェルビーイングの視点から施策を見直す重要性について説明がありました。施策立案における3つの視点（トップダウン型、進化・継続型、クリエイト型）や、予算要求におけるポイント（必要性・効率性・有効性・公平性・優先性）など、実務に直結する内容が多く、受講者にとって大変参考となる内容でした。また、道民カレッジ事業の見直しや、義務教育未修者・障害者の学び支援などの具体的な事例紹介もあり、今後の施策展開に向けたヒントを得ることができました。

斉藤氏の事例発表では、「まずやってみる」「当たり前を疑う」ことの大切さについて、ご自身の経験を交えてお話しいただきました。特に、地震災害時の対応や偶然の出会いから得られた気付きなど、実践に基づいた内容が多く、受講者にとって共感と学びの多い時間となりました。また、「人とつながることの価値」や「真実の瞬間を集めることの意味」など、社会教育における本質的な問いを投げかける内容も印象的でした。



○演習「ウェルビーイングを高めるために社会教育行政職員としてできること」

総合教育センター職員

午後は、午前中の講話・事例研究を踏まえた演習を実施しました。まず、自分にとってのウェルビーイングについて整理し、グループで共有する活動を行いました。その後、「家庭教育支援」または「青少年教育」においてウェルビーイングを高めるための方策について、模造紙と付箋を用いてグループワークを行いました。さらに、ワールドカフェ形式での意見交換を通じて、多様な視点やアイデアが出され、受講者同士の理解と交流が深まりました。



☆受講者の声（アンケートから）

- ・自分も楽しみながら事業が実践できるように、変更を加えていけたらと思います。
- ・ウェルビーイングを体感することができました。他の地区の事例を知ることができ、地元でもそのノウハウを広めていきたいです。
- ・社会教育を「知っている人を増やす」や、ウェルビーイングを「いい感じ」など優しく置き換えることも気付きでした。また、グループでのワークショップを通じて、より「気付き」が得られました。自分の講座・企画に反映させたいと思います。



研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL: 028-665-7206 e-mail: skc-syougai@pref. tochigi. lg. jp